

ブラウンシュヴァイク自転車展参観報告 及びハノーファー市内自転車小売店調査

1. ブラウンシュヴァイク自転車展 (RAD10)

標記展示会はハノーファーから快速電車で 50 分程の距離にあるブラウンシュヴァイクの文化センターで開催された地元消費者向けの自転車展である。

【RAD10】

主催： Fahrradinitiative Braunschweig

会場： Kulturzentrum Brunsviga

会期： 2010年3月21日(日) 10:00~18:00

入場者数： 未公表(昨年3,000名)

出展社数： 20社 ※展示会資料より集計



文化センター



屋外広場の様子

会場はブラウンシュヴァイク中央駅からバスで 15 分、更にバス停から徒歩 10 分程の住宅街にある Brunsviga 文化センターの催事場を利用していた。ドイツ各地域の消費者向け自転車展と比べて規模は一層小さく、建物は地域の町内会館のような施設であり、地域密着型のイベント内容であった。

自転車関連商品の展示は 1 階催事場と屋外の広場で行われ、出展者は地元自転車小売店が中心となり、更に会場の 2, 3 階には地元の adfc(ドイツ自転車連盟)や警察等のインフォメーションブースが見られ、会場内は狭くともアット・ホームな雰囲気にも包まれていた。

主な出展ブランドでは、スポーツ車は STEVENS を中心にコラテック、メリダ/センチュリオン及び CUBE 等でシティ車、トレッキング車ではコガミヤタ、ベルガモントを主に Contoura、MAX CYCLES 等。他車種では子供車、幼児車の PUKY、折りたたみ車のダホンと R&M 等であった。部品・付属品も多数見られ、それぞれの展示数は少ないものの一通り揃っていた。なお、電動アシスト自転車では、フライヤー、R&M 及びベルガモント等が展示され同車種の試乗車も用意されていて、会場外の一般道を試乗する人たちの姿も見られた。

次回の開催は未定である。



1階自転車展示会場



2階 adfc ブース



電動アシスト自転車（左；ベルガモント、右；フライヤー）

2. ハノーファー市内自転車小売店調査

調査実施日：平成22年3月21日（日）及び22日（月）

訪問地域：ハノーファー市内

調査店舗①

先ず始めにスポーツ車中心の小型店を訪問した。STEVENS を主体に MTB10 台とトレッキング車 10 台が展示されていた。また、チネリ、ルック等のロードレーサーのフレームも展示されていた。いずれもフレームは黒が多かった。電動アシスト自転車の取り扱いは無かった。



調査店舗①



黒のフレームが多い



店内の様子

調査店舗②

次にトレッキング車中心の中規模店を訪問した。トレッキング車は、VSF Fahrrad（独自自転車小売組合ブランド）と地元ブランドの Hannover RAD を中心に他にコガミヤタ、Contoura 等が計 70 台、更にシティ車 50 台及び子供車 30 台が展示されていた。総じて黒や紺のフレームが多かった。電動アシスト自転車は、ラレーが 2 台展示されていたが、交通の利便性が高い市中心部では一般の自転車の需要の方が高く、電動アシスト自転車販売は芳しくないのではないかと意見であった。



調査店舗②



付属品売り場



店内の様子

調査店舗③

次はトレッキング車とシティ車が中心の小型店を訪れた。両車種は Hannover RAD と MAX CYLCGES を中心に計 30 台、他に R&M の折りたたみ車 10 台程が展示されていた。電動アシスト自転車は、Hannover RAD の 1 台のみで、価格は 1,900 ユーロ (239,400 円) で、同車種の取り扱いを始めたばかりであった。



調査店舗③



店内の様子



MAX CYCLES



R&M

調査店舗④

続いてはヘラクレスのトレッキング車、シティ車を中心とした小型店を訪問した。シティ車、トレッキング車は計 50 台、子供車 20 台程が展示されていた。電動アシスト自転車を 10 年程前は扱っていたが、当時の同車種は故障が多く重量も重かったため、消費者からの苦情が多く修理も大変だったので取り扱いを止めた。現在はバッテリーなどの品質が向上したことは承知しているが、これからも扱う予定は無いと述べていた。



調査店舗④



部品、付属品売り場



店内の様子

